

浙江大学夏期語学研修に参加して

国際関係学部 国際言語文化学科2年 鈴木健太郎



今回の浙江大学夏期語学研修は幸運にも恵まれ、非常に有意義な一ヶ月となった。しかし今振り返ってみ

ると、予期せぬ事態にも見舞われた。到着後ほとんどの人が体調を崩してしまい、異国という不安の中、皆の協力で何とか乗り切った。私自身もひどい風邪のような症状に3日ほど悩まされ、40度近く熱が出て、病院で夜遅くまで点滴を打ったのを覚えている。体調が悪くベッドに横になっている時でさえ、看護婦さんが容赦なしに中国語で容態などについて質問してきたのはつらかったが、それでも自分は何とか答えていたので中国語の進歩にそのとき気づいた。

次に語学面についてだが、やはり日本で勉強する中国語ではわからなかった面が多くわかった。授業は月～金まで毎日、午前中3時間あった。内容は習ったものも多かったが、いざ中国語で授業を受けるとリスニングに半端でない集中力を要した。はじめのうちは授業後、神経を使い果たしてしまった感じでくたくたになってしまった。質問するとき、回答するときもすべてが中国語なので、みな自分たちの中国語を試行錯誤しながらコミュニケーションを図っていた。私は個人的に午後は家庭教師を頼み、2時間ほど中国語を教えてもらった。家庭教師といっても同年代の大学生だったので本当の友達のような感覚で接することができ、本当によい交流ができた。私は日本では中国の留学生とよく交流をもったが、中国にいる現地の日本語もまったくわからない大学生とは初めて接し、すべて中国語で意思を伝えるむずかしさ、文化的な違い、コミュニケーションスタイルの違いなどいろいろ再発見がたくさんあった。しかし、違いがたくさんありながらも、同じアジア精神と歴史的に深いつながりがある中国なので簡単な意思疎通にはあまり不自由しなかった。こちらの中国語も完璧ではないがかなり正確に理解してもらえたとし、日本の漢字を中国語読みすればだいたいわか

ってくれるし、聞き取れなくても筆談でほぼ90%意思疎通は可能だった。彼とは性格もかなり合い、いつも話が尽きることはなかった。

この広大な中国では、また自然の偉大さにも感動した。それは中国で大潮と呼ばれるものである。大潮といっても日本ではあまりなじみがないだろうが、ここ杭州を流れる銭唐江川が1ヶ月に一度大逆流することをいう。これは太陽と月の引力の関係と、地理的要因が重なって起こるようだが、世界でも珍しいこの逆流を見れるとは思っていなかった。偶然、家庭教師の大学に遊びに行った日に、彼の友達に新聞を見る、と言われて見たらちょうどその日が大潮の日だった。自転車で2時間ほど行き、1時間ほど待ちやってみることができたが、それだけの苦勞をして見る価値は十分あった。川の幅は1km程あったと思うが、端から端までいっぱい広がった波がまるで津波のように押し寄せてくる。あの轟音と、濁流の勢いには、自然の神秘に感動させられた。その帰り道、たまたまテレビ局の人が来ていて、私と家庭教師がインタビューされた。その日の夜のニュースで放送され、私のインタビューは残念ながらカットされたが、横に自分が映っていたのでまたまた感動してしまった。

今回の語学研修では、生きた中国語がどういったものであるかがわかり、また同時に私たちの中国語の未熟さを実感した。また、中国という国の魅力を再発見し、更に深く知りたいことも今多くある。3週間という短い期間だったが、私たちの心の中は貴重な思い出でいっぱいだ。ただ心の中にしまっておくのではなく、この経験を生かし、更なる語学や知識を身につけていかなければ本当の意味で有意義な研修だったとはいえないと思う。今はまた近い将来中国へ行けるよう、皆それぞれ日本で、更なる中国語の勉強に励んでいる。

